

## II 実施報告（詳細）

### 【1】研究開発単位Ⅰ「未来航路」

○ 未来航路で育む5つの資質・能力

5つの資質・能力	主な資質・能力の内容
幅広く深い教養	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界における日本の立場や役割を理解している。</li> <li>・各教科で習得した知識や技能を課題解決にいかすことができる。</li> </ul>
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を分析し、グローバルな視点で課題を発見することができる。</li> <li>・問題把握や課題解決に必要な情報を収集することができる。</li> <li>・論理的に課題の解決策を考え、評価・検証を行うことができる。</li> <li>・他者と協働し、創造的に課題を解決することができる。</li> </ul>
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分やグループの意見を論理的に説明することができる。</li> <li>・多様な人の考えや価値観を理解することができる。</li> <li>・ICTを用いて、意見等を収集し発信することができる。</li> </ul>
リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向けて明確なビジョンを示すことができる。</li> <li>・メンバーとビジョンを共有することができる。</li> <li>・課題解決に向けて、協働して取り組むよう働きかけることができる。</li> <li>・メンバーの資質・能力や適性をいかすように働きかけることができる。</li> </ul>
社会貢献の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会貢献や国際貢献の重要性について理解している。</li> <li>・現代社会の諸問題を自らの問題として捉え、解決に向けて取り組むことができる。</li> <li>・岡山・日本・世界の課題を解決しようという意欲がある。</li> </ul>

#### （1）1年（課題研究基礎）の取組

4月 集団宿泊研修

就実大学経営学部教授 林 俊克 氏による講演会を実施した。内容は、国際社会において求められる人材像についてであった。その後、「仲間づくり」と「グローバル」をテーマにクラス討議を行い、ポスターセッション形式で発表を行った。発表では全員が発表者と聴衆の両方の立場を経験することで、効果的なプレゼンテーションの手法に対する理解を深めた。

6月 グローバル講演会

講師 株式会社 力の源ホールディングス 取締役 Asia 事業本部本部長 矢野亮太 氏  
人事総務本部 関口照輝 氏

「グローバルな視点・視野をもつことの大切さ」「グローバルな社会課題、ビジネス課題について」「コミュニケーションの大切さ」について、ワークショップを交えての講話であった。翌週「講師が最も伝えたかったこと」「深く関わっていると感じた資質」についてグループ討議、クラス発表を行った。

6～7月 課題研究基礎【課題発見と解決力】

ラーメン会社を起業し、世界進出していく社長に対して「専門家として貢献できること」「貢献に対して必要な力を身につけるために、どこの大学・学部・学科で何を研究すればよいのか」を8系統（文学系統、法・経済系統、教育系統、理学系統、工学系統、農・水産系統、医療・生活系統、芸

術系統)で研究し、ポスター発表を行った。また代表班(農・水産系統)が第1回運営指導委員会で発表を行った。

## ラーメンで世界進出

### 【課題】

武田君は、これからラーメン会社を起業し、社長として日本だけでなく世界へ進出することを考えています。そのためには、多くの人の力が必要です。また、さまざまな国でビジネスを展開するには、それぞれの国の文化に対応しながら拡大を目指す必要があります。

社長として、各分野の人に様々な仕事を依頼したいのですが、具体的に何をどのように依頼すればよいのか困っています。

あなたは、各分野の専門家として「どのような形で何が貢献できるか」を具体的に提言してください。また、貢献する力を身につけるために「どこの大学・学部・学科で何を研究すればよいのか」示してください。なお、武田君のプランは次のとおりです。

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本だけでなく世界へ進出する</li> <li>・自社工場で生産する</li> <li>・社員の健康のため労働環境を整える</li> <li>・宣伝し利益を出す</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外では現地の人を雇用する</li> <li>・優秀な社員を育てる</li> <li>・安心安全でおいしいラーメンを提供する</li> <li>・ネット通販で冷凍ラーメンを販売する</li> </ul> |
|---|---|

### 【研究方法】

#### (1) 専門分野

- ①文学系統      ②法・経済系統      ③教育系統      ④理学系統  
 ⑤工学系統      ⑥農・水産系統      ⑦医療・生活系統      ⑧芸術(含デザイン)系統

#### (2) グループ

クラスを機械的に8グループに分けます。グループで1つの専門分野を研究していきます。

#### (3) 研究内容

- ㊦ 専門家として、武田君のプランのある分野(全てではない)に「どのような形で何が貢献できるか」(その問題に関する実社会における現状把握と課題)を具体的に調べる。実際の企業の事例を例として示せば説得力は上がる。その際、企業はラーメン以外でも可である。
- ㊧ ㊦の貢献に対し必要な力を身につけるために「どこの大学・学部・学科で何を研究すればよいのか」を1つの項目に対し、2つ以上調べる。同じ名称の学部・学科であっても研究内容は異なる。また、思いもしない学部・学科で、研究できることもある。複数の大学を調べる。

#### (4) 日程と概要

月 日	内 容	準 備 物 等
6月19日 (水)	グループ内で個人発表(1人5分)と質疑応答, 7月22日の中間ポスター発表に向け協議・検討	ワークシート, 参考文献や調べてきた資料
6月26日 (水)	6月27日の中間ポスター発表に向け, 発表原稿とポスターの作成	ワークシート, ポスター, マジック, 新聞, 持参資料
7月17日 (水)	7月25日の中間ポスター発表に向け, 発表原稿とポスターの作成	ワークシート, ポスター, マジック, 新聞, 持参資料
7月22日 (月)	7月25日の中間ポスター発表に向け, 発表原稿とポスターの作成	ワークシート, ポスター, マジック, 新聞, 持参資料

7月25日 (木)	専門分野別（1つの専門分野につき7グループ）で集まり，中間ポスター発表（1班5分）と質疑応答	ワークシート，持参資料，ポスター，マジック，新聞，発表原稿
7月26日 (金)	クラス発表へ向けて，発表原稿とポスターの再考・作成	ポスター（模造紙），マジック，新聞
7月29日 (月)	クラス内でポスター発表（1班5分）と質疑応答，まとめ	ポスター，発表原稿

(5) その他

- 本やインターネットを利用して調べて来ること。ワークシートにまとめる際，参考，引用した箇所は出典を書くこと。また，インターネット利用時は，信用できるサイトを閲覧すること。可能な範囲で，プリントアウトしておくこと，今後便利です。『スタディサポート Planning BOOK』『マナビジョンブック 高校生活スタート号』なども参考にするとよい。
- ポスターを作ったり，プレゼンをしたりする際に，現代社会の図説などを参考にしてもよい。

9月 グローバル講演会

講師 株式会社 フジワラテクノアート 代表取締役社長 藤原 恵子 氏

岡山から世界へ活躍する企業からグローバルな視点を学び視野を広げることができた。また，女性の社会進出やリーダーシップについて理解を深められた。

9～12月 課題研究基礎【思考力と表現力】

対立軸のあるテーマやデータ分析について，グループディスカッションとディベートを実施した。テーマについては，身近な社会課題を参考にしながら設定した。その結果，生徒のモチベーションも高まり，より主体的な取り組みが感じられた。

① グループディスカッション

**未来航路プロジェクト「グループディスカッション」について**

今回は，資料やデータからの読み取り，分析，推論などを，班で協議します。テーマは，過去の大学入試から選んでいるので，より主体的な取り組みとなることを期待しています。

(1) テーマ 「若者の結婚観」について (2015 公立大学経済学部 小論文試験改題)

(2) 日程 令和元年10月23日(水) …… 「若者の結婚観」

(3) 当日の流れ

形態・目安時間	活動内容
個人・3分	「60年の間に日本の結婚のあり方はどのような変化をとげたか」について，2つのデータから読み取れることを列挙する。
2人組・5分	隣の人と情報を交換する。
個人・8分	読み取れたことを100字程度でまとめる。
4人班・18分	各自の答案を持ち寄って内容を検討し，自分たちの班のベストな答案を作る。
個人・10分	他班とプリントを交換し，コメントを記入する。
個人・6分	担任によるまとめと各自で振り返り

## ② ディベート

「日本は75歳以上のすべての高齢者の運転免許返納を義務化すべきである。是か非か。ただし、2022年4月から適用する。ここでいう運転免許とは第一種運転免許，第二種運転免許，仮運転免許のことを指すものとする。」をテーマにディベートを実施した。高齢ドライバーの事故が問題となる中，ディベート活動を通してこの問題を深く理解した生徒も多かった。様々な角度から問題を考え，根拠を明らかとしながら，論理的に相手にわかるように意見を述べる力の育成を図った。なお，「シナリオディベート」⇒「ディベート準備」⇒「クラス大会」⇒「学年大会準備」⇒「学年大会」の流れで取組を行った。

### 未来航路プロジェクト「シナリオディベート」について

【1】日時 令和元年10月30日（水）6，7限

【2】場所 各HR

【3】準備物 ・班分け

- ・実施要項（このプリント）（全員）
- ・「『ディベート』とは」冊子（全員）
- ・フローシート例（全員）
- ・フローシートの使い方（全員）
- ・シナリオ用フローシート（全員）
- ・シナリオ肯定用／否定用（全員）
- ・シナリオ全文（全員）
- ・リンクマップ用紙（各班1枚）
- ・掲示用論題（各クラス1枚）
- ・ストップウォッチ（3班で1個）
- ・立論シート・反駁シート（1人×2枚1セット）
- ・シナリオディベート振り返りシート（全員）

【4】内容

（1）ディベートに関する概要とフローシートの使い方について（30分程度）

①実施要項，「『ディベート』とは」冊子，フローシート例，フローシートの使い方の配布

②「『ディベート』とは」冊子を各自が黙読する。6ページと18ページ以降は，フローシート例を併せて確認する。

○注意点 ディベートとは，「ある特定のテーマの是非について，2グループの話し手が，賛成・反対の立場に別れて，第三者を説得する形で議論を行うこと」です。たとえば，「日本は高速道路の建設をやめるべきだ」というテーマを与えられたら，聞き手に対し，賛成派はそれによっていかに素晴らしいことが起こるのかを訴え，逆に反対派はそれによっていかに恐ろしい問題がおこるのかを訴えるのです。なお，ディベートの試合は，肯定側の選手・否定側の選手と，試合の勝敗を決めるジャッジ（審判）の3者から成り立ちます。ディベートの試合において，選手の最大の目的は，議論を通じて「第三者であるジャッジ（審判）を説得する」ことです。決して，「対戦相手を言い負かす」ゲームではありません。

（2）班分けと移動（10分程度）

①机を下図のように配置し，ディベートの班で3班ずつ集まる。

②肯定側・否定側・ジャッジをどの班が担当するかを決め，下図のように座る。

③各班で肯定側「立論する人（応答もする），質疑する人，反駁する人」の3名，否定側「立論する人（応答もする），質疑する人，反駁する人」の3名を決める。読むとき以外は全員フローシートにメモをとる。

（3）シナリオディベート（25分程度）

今回はディベートのフォーマットとフローシートの使い方慣れることを目的とし，第1反駁までを行う。

①シナリオ用フローシートとシナリオ（肯定用／否定用を1枚）を配布。

②ジャッジの班もフローシートに記入すること。

③肯定側・否定側も読むとき以外は，フローシートに記入すること。

- ④担任の先生の司会で肯定側と否定側がシナリオを読む。(時間帯は別紙参照)
- (4) シナリオディベートの振り返り・論題発表・立論作成(35分程度)
- ①シナリオ全文を全員に配布。議論の仕方や、フローシートのメモのとり方、判定のポイントなどを確認。
  - ②ジャッジの班はシナリオを見ず、フローシートに記入すること。
  - ③論題発表
  - ④リンクマップ用紙配布。論題について、自由にメリットやデメリットを考えて書き込む。
  - ⑤立論シート・反駁シート配布。立論を考えることで、自分たちの肯定側立論に対して否定側反駁、否定側立論に対して肯定側反駁を考えることができる。まずは立論を完成させることが先決。

### 未来航路プロジェクト「ディベート準備」(クラス大会・学年大会準備も含む)について

- 【1】日時 令和元年11月6日(水)7限, 11月13日(水)7限, 11月20日(水)7限, 12月11日(水)6~7限, 12月18日(水)7限
- 【2】場所 各HR教室
- 【3】内容 班活動 ・ディベートクラス大会・学年大会の要項を配布し、流れを確認する。  
・ディベート大会へ向けての準備を行う。

### 未来航路 ディベートクラス大会 要項

(1) 論題

日本は75歳以上のすべての高齢者の運転免許返納を義務化すべきである。是か非か。ただし、2022年4月から適用する。ここでいう運転免許とは第一種運転免許、第二種運転免許、仮運転免許のことを指すものとする。

(2) 日時・会場 令和元年12月11日(水) 6・7限 各教室

(3) 日程 以下の時間を目安に進行します

14:20 1試合目開始 14:50 1試合目終了 14:55 2試合目開始 15:25 2試合目終了  
15:30 3試合目開始 16:00 3試合目終了 代表チーム発表 ジャッジ&司会選出

(4) 試合方法について

クラス内の9チームをシナリオディベートのときと同じように3つのブロックに分け、各ブロックの3チームが「肯定側」「否定側」「ジャッジ&司会」のローテーションで3試合行います。

「ジャッジ&司会」になったチームは、3人がジャッジを行い、残りが計時と司会を行います。試合の進行は、別紙進行表により、司会の生徒で行って下さい。ストップウォッチは各クラス3台用意します。また、試合は以下のフォーマットで行います。各パートにつき、一人が担当してください。

【4人班】

肯定側立論①	3分
準備時間	1分
否定側質疑①	2分
肯定側応答①	
否定側立論②	3分
準備時間	1分
肯定側質疑②	2分
否定側応答②	
準備時間	1分
否定側第1反駁③	2分
準備時間	1分
肯定側第1反駁③	2分
準備時間	1分
否定側第2反駁④	2分
準備時間	1分
肯定側第2反駁④	2分
審査時間	2分
判定と講評	2分
合計	28分

【5人班】

肯定側立論①	3分
準備時間	1分
否定側質疑①	2分
肯定側応答②	
否定側立論②	3分
準備時間	1分
肯定側質疑③	2分
否定側応答③	
準備時間	1分
否定側第1反駁④	2分
準備時間	1分
肯定側第1反駁④	2分
準備時間	1分
否定側第2反駁⑤	2分
準備時間	1分
肯定側第2反駁⑤	2分
審査時間	2分
判定と講評	2分
合計	28分

(5) 代表選出について

・試合の経過や結果をもとに、学年大会の際のクラス代表を2チーム、グループ戦に出場するチームを6チーム、ジャッジ&司会を担当するチームを1チーム選んで下さい。選出方法は生徒の互選でも担任の指名でもかまいません。代表2チームは、当日にならないと肯定・否定のどちらを担当するかわかりません。グループ戦に出場するチームは、AからFの番号を振ってください。トーナメント表は決まっています。肯定・否定のどちらを担当するかわかりません。ジャッジ&司会を担当するチームは、ジャッジ3名と司会1or2名になります。

(6) 今後の予定

月日	内容	備考
12/11 6,7限	ディベートクラス大会	12/17(火)7限は水曜6限の授業
12/18 7限	ディベート学年大会準備	
12/25 (冬季補習) 1~3限	ディベート学年大会	

(7) その他

- ・クラス代表2チームは、12/11に抽選会を行うため、各班の代表者1名は放課後1-1教室集合。
- ・進行補助の班は、12/18(ディベート学年大会準備)のときに、役割決めのため1セミへ集合。

未来航路 ディベート学年大会 要項

(1) 論題

日本は75歳以上のすべての高齢者の運転免許返納を義務化すべきである。是か非か。ただし、2022年4月から適用する。ここでいう運転免許とは第一種運転免許、第二種運転免許、仮運転免許のことを指すものとする。

(2) 日時 令和元年12月25日(水) 1~3限(冬季補習) ※8:40教室でSHR→机を動かして、各会場へ移動

(3) 会場 クラス代表戦出場生徒、司会、審判(ジャッジ) → 武道場、百周年会議室  
グループ戦出場生徒 → 指定された各教室

(4) 持参物 ・立論、資料等 ・筆記用具 ・司会用原稿(武道場のみ)

(5) 配布物 ・フローシート ・司会用原稿（武道場は配付済） ・試合結果記録用紙

(6) 大会フォーマット（くじ引きによって決められたトーナメント戦を実施し、1・2位を表彰）

クラス代表戦

肯定側立論	3分
準備時間	1分
否定側質疑	2分
否定側立論	3分
準備時間	1分
肯定側質疑	2分
準備時間	1分
否定側第1反駁	2分
準備時間	1分
肯定側第1反駁	2分
準備時間	1分
否定側第2反駁	2分
準備時間	1分
肯定側第2反駁	2分
審査時間	2分
判定と講評	2分
合計	28分

グループ戦

肯定側立論	2分
準備時間	1分
否定側質疑	2分
否定側立論	2分
準備時間	1分
肯定側質疑	2分
準備時間	1分
否定側第1反駁	90秒
準備時間	1分
肯定側第1反駁	90秒
準備時間	1分
否定側第2反駁	90秒
準備時間	1分
肯定側第2反駁	90秒
審査時間	1分
判定（講評なし）	
合計	21分

(7) 試合開始時間

第1試合 8:50, 第2試合 9:25,

第1試合 8:50, 第2試合 9:15,

第3試合 10:00, 決勝戦 10:50

第3試合 9:40, 決勝戦 10:05

(8) グループ戦の流れ

肯定否定は1回のじゃんけんで、勝ち肯定、負け否定とする

(9) その他

学年大会当日、山陽新聞・山陽放送の取材がある。

## 1月 学年集会

学年主任から、課題研究の意義、グループ研究の良さ、SDGsと社会の関連性をテーマに講義することで、課題研究への導入とした。

## 1月 グローバル講演会

講師 岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授 黒神 直純 氏

「研究をすること～研究を進めるに当たって～」と題し、テーマ選びの重要性とその観点、資料や情報の集め方と発表構成の留意点など、課題研究を進めるに当たってのポイントをわかりやすく説明された。

## 1～3月 課題研究準備

### 3学期の未来航路（課題研究準備期）について

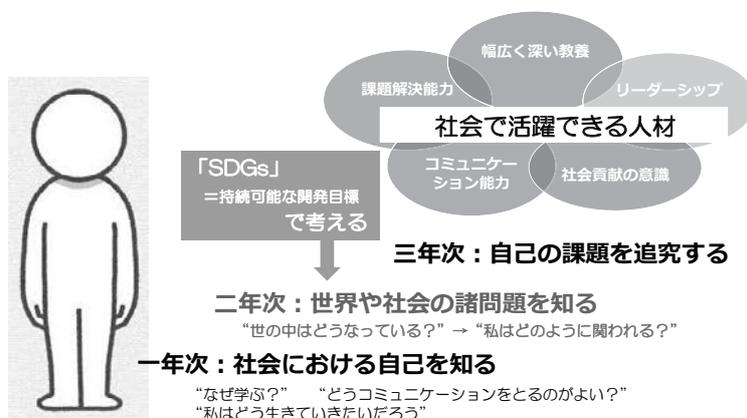
#### 1. はじめに

3学期の未来航路は2年生での課題研究の準備期間となります。SGHの終了にともなって、課題研究についても変化があります。次年度からの課題研究は、持続可能な開発目標（SDGs）を柱として研究していきます。SDGs

(Sustainable Development Goals の略称) とは、2015年の国連サミットで出された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない持続可能な社会を実現するための目標と定められています。日本も企業や大学、地方自治体等がSDGsを達成するために、様々な取組を行っています。2年次の課題研究では「2. 目指す生徒像」にもあるように社会課題について知り、世の中に主体的に関わる意識を養成することを目標にしているため、SDGsを柱として大学・企業等と連携を進めながら課題についてより深く向き合うことを2年次課題研究の理想的な在り方にしたいと思います。

## 2. 目指す生徒像について

下図のように、2年次では「世界や社会の諸問題を知る」ことがテーマです。世の中はどうかっているのか、自分はどうよに関わることが出来るのかを課題研究をとおして学んでいくことで、5つの資質・能力を身につけ、社会で活躍できる人材を目指します。



〔補足〕 操山高校が掲げる5つの能力・資質

グローバルな課題を理解できる**幅広く深い教養**，グローバルな視点で課題を発見し，論理的に解決策を考えることができる**課題解決能力**，多様な人の考えや価値観を理解し，自分の考えを伝えることのできる**コミュニケーション能力**，主体性と協働性を持ってチームを動かすことのできる**リーダーシップ**，岡山・日本・世界のために貢献しようとする**社会貢献の意識**の5つの資質・能力を養うことにより，「和して流れず」の精神で，課題に果敢に挑戦し課題解決を図ることができ，岡山と日本の未来を切り拓くグローバル・リーダーを目指す。

## 3. 領域とSDGsについて

領域は「Life」「Welfare」「Environment」の3領域とする。

課題研究発表会での代表発表は各領域から2班とする。(予定)

「Life」領域

目標① [貧困] ・ 目標② [飢餓] ・ 目標③ [保健] ・ 目標④ [教育] ・ 目標⑤ [ジェンダー] ・ 目標⑥ [水・衛生]

「Welfare」領域

目標⑦ [エネルギー] ・ 目標⑧ [経済成長と雇用] ・ 目標⑨ [インフラ，産業化，イノベーション] ・ 目標⑩ [不平等] ・ 目標⑪ [持続可能な都市] ・ 目標⑫ [持続可能な消費と生産] ・ 目標⑬ [平和]

「Environment」領域

目標⑭ [気候変動] ・ 目標⑮ [海洋資源] ・ 目標⑯ [陸上資源]

## 4. 1年生3学期の活動について

(1) 動機付けを行う

- ・ 課題研究を行う意義⇒学年主任，岡山大学黒神先生からの講義や各担任からの指導
- ・ SDGs に対する基礎知識の習得⇒プリント (SDGs とは？引用文献：国際連合広報センター) や WEB (岡山大学×SDGs, 外務省 SDGs) の活用
- ・ 身の回りの課題と SDGs の関連性を把握し，自分ごととする⇒操山高校を例に考える
- ・ 社会課題と SDGs の結びつきについて考え，世の中で起きていることとの関連性を理解⇒新聞記事を活用

(2) 班分けを行う

領域内にある「17 の目標(17 除く)」ごとに集まり，「気になる課題」をグルーピングしていく中で，最終的に生徒たちで 5 人程度の班を編成する。最初のグルーピングで番号と違うであろう「気になる課題」が出るのが予想されるため，翌週に移動後の状態でもう一度グルーピングする時間を設ける。ただし，ある目標の番号が少ない場合は，領域の中で調整する。またグルーピングしていく中で教員がアドバイスをを行い，軌道修正をしていく。

5. 3 学期活動計画

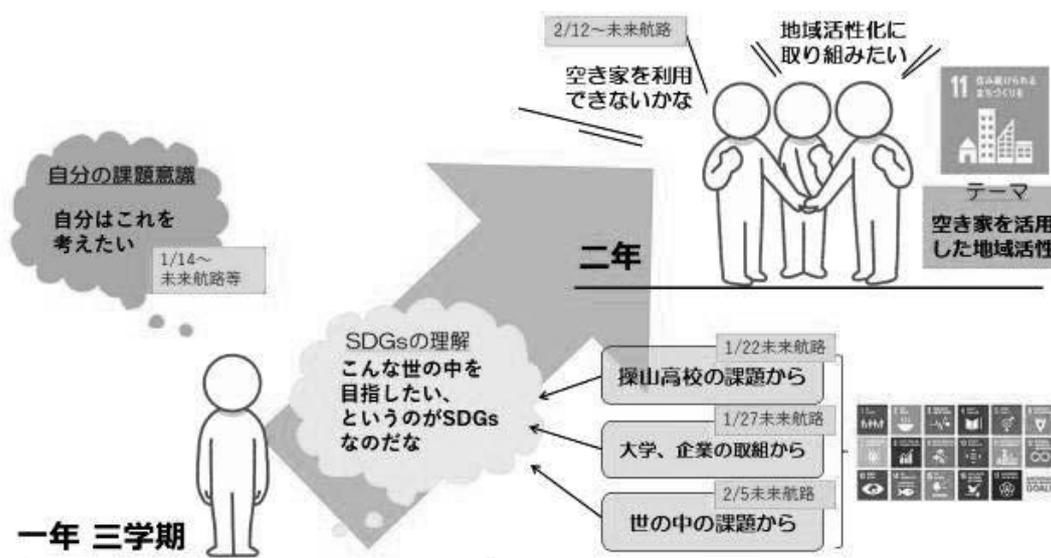
実施日・場所	時数	この時間を通しての目標	具体的な学習内容等	備考
1/14(火) LHR 第 1 体育館	1	未来航路で目指す姿を理解し，SDGs をもとに社会の諸問題と向き合うという 2 年生での課題研究の内容を知る。また中学校での個人課題研究との違い，グループ研究での良さを学ぶ。	講義「課題研究を行う意義」 第 1 学年主任 連絡「未来航路 3 学期活動内容」 未来航路担当者	・ 寒い防寒具の着用を認める。 ・ 6 限プロジェクター・スクリーン・パソコン等の準備 ・ 課題研究発表会ポスター発表参観希望アンケート配布 1/17(金)締切
1/15(水) 武道場	1	課題研究を進めるに当たっての留意事項や方法等について学ぶ。	グローバル講演会「研究をするということ～「課題研究」を進めるに当たって～」 岡山大学 黒神先生	・ 6 限プロジェクター・スクリーン・パソコン等の準備
1/22 (水) 各HR	1	SDGs (17 の目標) について具体的に知る。	2 年次課題研究へ向けて① 1. プリント (SDGs とは？引用文献：国際連合広報センター) を読む。 2. 企業や大学の取組を紹介する。 3. 操山高校を例に考えることにより SDGs で目指す姿を”自分ごと”として捉える。	・ クロームブックで岡山大学×SDGs, 外務省 SDGs のサイトを見せる。 ・ Web アンケート配布 (「気になる課題」とそれが SDGs のどの目標番号にあたるかを入力する。1/27 締切) ・ 岡山大学や企業の取組を調べるワークシートを配布 (次回までの課題)

1/27 (月) 各HR	1	岡山大学や企業の取組をもとに、社会で実際に行われているSDGsに向けた取組を知る。また新聞記事から世の中の課題はすべてSDGsのいずれかに関連していること、それぞれの目標は単体なものではなく、つながっていることに気づく。	2年次課題研究へ向けて② 1. 岡山大学や企業での取組を共有する。 2. 新聞記事に掲載されている世の中の事件や問題がSDGsのどの目標に関連しているかを考察する。 3. 2年生未来航路発表会の連絡	・第2回運営指導委員会 ・1/29 (水) 代替
1/28 (火) 午前:校内 午後:岡山市民会館	3	先輩の発表を聞くことで、自分たちが行う課題研究へのイメージを持つ。	①~④限 学校行事 ⑤~⑦限 2年生の未来航路発表会へ参加	※詳細は別紙
2/5 (水) 領域・番号別に指示 (広い部屋の確保)	1	自分たちの課題意識を共有し、それを分類することで共通項を見つける。	2年次課題研究へ向けて③(グループ研究のための準備:グループング) 1. 「気になる課題」をグループングする(5人組)。	・Web課題で出された「気になる課題」を付箋にしておく。 ・事前に担当の先生方でグループングを体験しておく、生徒がグループングしていく中での軌道修正を図る。また課題とSDGsの目標の番号が違うであろう生徒を把握しておく。
2/12 (水) 領域・番号別に指示	1	自分たちの課題意識を共有し、それを分類することで共通項を見つける。また、他の班が作成したワークシートと比較し、よりよい分類を考える。	2年次課題研究へ向けて④(グループ研究のための準備:フィードバック後の再グループング) 1. 2月5日でグループングしたシートを元に、目標番号と違った「気になる課題」も含め、再度グループングを行う。 2. 2枚のワークシートを結合する(10人組)。	・グループングしたシートを元に、目標番号と違うであろう生徒を2/12までに呼び、目標番号を再確認させる。

2/19(水)領域・番号別に指示	1	他の班が作成したワークシートと比較し、よりよい分類を考える。	2年次課題研究へ向けて⑤ (グループ研究のための準備:グループピング) 1. ワークシートを比較し結合する作業を続ける。 2. 1つのワークシートになった場合、班決定を行う。 3. 「気になる課題」に関する現状把握と課題発見を行う。	2/12の状況によっては、グループピングの続きを行う。グループピングが出来たら、班決定へ。
------------------	---	--------------------------------	--	---

※春休み課題に、関連する書籍を2冊読む

## 6. 1年3学期課題研究(準備期)から2年生課題研究へのイメージ図



### (2) 2年(課題研究)の取組

#### ①概要

昨年度に引き続き、「貧困と飢餓」「紛争と平和」「教育」「健康と疾病」「貿易と開発」「持続可能な開発と環境問題」の6つの分野に分け、各分野内にグループをつくり、グループ研究を実施した。ただし、今年度は各分野に国際塾生の7つの班を含める形で行った。各分野に岡山大学から大学教授等の研究者をアドバイザー・スタッフとして年間3回、大学院生及び大学生をティーチングアシスタントとして年間5回招き、課題研究のサポートを依頼した。

アドバイザー・スタッフ 岡山大学大学院

社会文化科学研究科教授 黒神 直純

社会文化科学研究科准教授 西田 陽介

自然科学研究科准教授 内田 哲也

教育学研究科准教授 尾島 卓

## ②課題研究の経過

### ○4月10日「読書記録ノートの共有」

春休みの課題としてまとめさせた、テーマ設定に向けての文献を調べた「読書記録ノート」をグループ内で共有し、質疑応答を行って研究の方向性について話し合った。

### ○4月17日「研究テーマの絞り込み」

研究テーマ候補を3つに絞り込んだ。その際、「未来航路プロジェクト『課題研究』研究計画書」(以下「研究計画書」)の項目に沿いながら、以下のことに留意するよう指示した。

- ・テーマが課題解決に向けて「検証や実験が可能なのか」「解決方法がイメージできるのか」をよく考える。
- ・身近な事柄にテーマを落とし込むことが重要である。
- ・チームをチームとして機能させるために「誰かがしてくれる」のではなく「私が、何をするのか」を常に意識する。

### ○4月24日、5月8日「研究テーマのプレゼン準備」

3つの研究テーマ候補について、大学の先生にプレゼンする準備を行った。また、並行して修学旅行における取組を行った。これは、旅行先で関係者に質問をし、研究を行ううえで有益な情報を得るものである。グローバルな視点、ビジネスの視点を養うことも目的としている。概略は、次の通りある。

#### <シンガポール・マレーシア方面>

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 対象：シンガポールの大学の学生及びホームステイ先、マレーシアのパシル・グダン校</li><li>2 内容：交流時に、課題研究にできるだけ関係する質問（すぐに答えられるような内容）をすること。</li><li>3 事前取組：課題研究班で、事前に質問を考えておく。なお、英語で質問のやりとりができるように準備すること。</li></ol> |
|---|

#### <東京方面>

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 対象：企業、関係機関、大学など</li><li>2 内容：企業、関係機関、大学等に訪問する時間がある。訪問班（研究テーマに近い）を作り、課題研究に関係することを質問すること。課題研究の同じ系統で訪問班を作ると訪問先を選定しやすい。</li><li>3 事前取組：課題研究班で、事前に質問を考えてください。訪問班をつくり、訪問先を考えアポイントをとること。訪問計画書を作成し送付します。</li></ol> |
|--|

### ○5月15日「研究テーマのプレゼンテーション」

大学の先生に、「研究計画書」を用いて研究テーマ候補のプレゼンを行った。事前に「研究計画書」を送り、研究の意義や重要性という観点からポイントを絞ったアドバイスをいただいた。また、各分野で研究の手法や進め方等について、専門的な見地から指導を受けた。

### ○5月29日～6月5日「研究テーマ・内容・方法の検討・決定」

5月15日の大学の先生からのアドバイスに加え、さらに6月5日に大学院生及び大学生による指導もいかしながら、研究テーマ・内容・方法を決定した。その際、「研究計画書」をできるだけ

具体的に完成させるよう指導した。

○6月12日、26日「研究実践」

12日から研究計画書に基づき研究を開始し、並行して担当教員と研究計画書について面接を実施した。26日は、修学旅行における取組を共有した。また、「未来航路」の授業時に個人のスマホの利用を許可した。その際 LINE を使った班員間のデータ共有などを紹介した。研究に必要な写真や動画の撮影、計測、データ処理、インターネットでの検索など、幅広く活用していた。

○7月17日、7月24日「研究実践の確認」

17日は、大学の先生による指導を実施した。各グループが「研究計画書」に基づき、その内容について発表を行った。そこで研究の方法や参考文献の紹介を受け、今後の資料集めなどの活動についてアドバイスを受けた。24日は、夏期休業中の取り組みについて確認をし、各グループで明確な役割分担を決定した。

○8月21日～10月23日「研究実践、中間発表準備」

8月21日は、夏季休業中の取組を共有し、「研究計画書」の見直しを行った。10月2日には大学院生等の指導を受け、それ以降は、研究実践をしながら中間発表に向けて取り組んだ。中間発表の概要は次の通りである。

発表時間：各班、7分以内。その後、質疑応答・指導。

発表方法：パワーポイントを使用し、班全員が発表する。

構成：①課題設定の理由 ②課題解決の手段、方法 ③現在までの取組状況や成果、課題  
④今後の取組予定 ⑤結論の方向性 などを柱に構成する。

○10月30日「中間発表」

中間発表を行い、大学の先生から研究内容や手法などを進捗状況に応じたアドバイスを受けた。特に研究に行き詰っているグループに対しては、現状を打開するための新たな示唆を与えていただき、研究の方向性を修正する機会となった。発表後、今後取り組むべき課題を明確にし、「研究計画書」の調整を行った。

○11月6日～12月11日「研究実践、系統別発表会準備、論文作成」

系統別発表会の準備と論文作成に取り組んだ。11月15日には、大学院生及び大学生の指導があり、中間発表で指摘された点についてさらに詳しく指導を受けた。その指摘や助言を踏まえて研究内容を深めていった。12月12日を論文の第1回の提出日とし、教員による添削を受けて推敲させた。なお、最終提出日を1月24日とした。また、系統別発表会の概要は次の通りである。

発表時間：各班、7分以内。その後、質疑応答。

発表方法：パワーポイントを使用すること。班全員が発表すること。

構成：次項を入れること。 ①課題設定の理由 ②課題解決の手段、方法、結果 ③成果と課題

○12月18日「系統別発表会」

大学院生及び大学生を招き、系統別発表会を実施した。発表では、趣向を凝らしたスライドやわかりやすい解説があり、意欲的なプレゼンテーションを展開した。また、鋭い質問に窮する場面もあり、緊張感のある充実した発表会となった。大学院生及び大学生、本校教員及び生徒の相互評価により、各系統から代表グループを選出した。なお、国際塾生の班だけで発表会を行い、その中から代表グループを1つ決定した。